

競 技 注 意 事 項

本競技会は 2022 年日本陸上競技連盟競技規則と本大会申し合わせ事項により行う。

2022 年 1 月 1 日の WA の競技規則 TR5 の改正と新たに「競技用靴に関する規程」が導入されたことに基づき、靴底の厚さのチェックは実施しない。ただし、審判長および競技役員はいつでもシューズチェックをすることができ、競技者はその指示に従わなければならない。明らかに規則・規程違反のシューズや疑わしいシューズは、チェックや回収の対象になることがある。競技後にシューズの違反が認められた場合は、審判長が「失格」と判断し、記録が取り消される場合がある。

競技用靴・靴底厚さ表

種 目	靴底最大の厚さ	要 件 ・ 備 考
フィールド種目(除:三段跳)	20mm	全投てき種目と三段跳を除く跳躍種目に適用する。 全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目 (800m 未満の種目、ハードル種目を含む)	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目 (800m 以上の種目、障害物競走を含む)	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは道路競技と同じとする。
道路競技(競走、競歩)	40mm	

※ただし、フィールド競技用シューズについては、規則・規程適用を除外する。

1. 競技場への入場について

- (1) 入場は出場種目開始の 2 時間前からとし、1 F 正面玄関のみとする。
退場・再入場はマラソングートを使用すること。なお、再入場時は当日配布する**入場許可証**を競技役員に提示すること。
- (2) 正面 2 F メインスタンド入口は開放しない。高体連 WEB ページの『競技会の運営方法について』
■競技会の選手出場方法について(ヤンマーフィールド長居用) を必ず読んでおくこと。

2. 練習について

- (1) 練習はバックスタンド後方(東側)の練習走路を使用すること。走る方向は北から南の一方通行とし、逆走は禁止する。個人のハードルやラダーなどは持ち込まないこと。また、ゴムチューブなどを使ったスピード練習は禁止する。
- (2) バックスタンド後方(東側)の練習走路でのハードル練習は禁止し、競技開始前のハードル設置後に行うこと。
- (3) 競技開始前のトラック練習は、**27 日は 8 時 30 分、28 日・29 日は 9 時 00 分**までとする。
[ホームストレート・バックストレート]
○1・2 レーン=長距離周回練習 ○ジョグ=レーン外
○3~5 レーン=コーナーからのスプリント練習 ○6~9 レーン=直線からのスプリント練習
※順番待ち等は、密を避けるように距離を保って行うこと。
- (4) 競技場・公園内でのリレー練習は一切認めない。また公園内でのスピードを出しての練習も禁止。
- (5) 競技場および公園内はメディスンボールなど、物を投げる練習は禁止する。
- (6) 走高跳、走幅跳、三段跳は準備が整った後、競技役員の指示で練習してもよい。
- (7) 競技場内での練習は、競技役員の指示に従うこと。

3. 招集について ※招集所へのスマートフォン・携帯電話等の通信機器の持ち込みは禁止する

- (1) 競技開始2時間前～1時間前（棒高跳のみ1時間30分前）までに「体調管理チェックシート」（用紙は高体連WEBページにある最新のもの各自でダウンロードして利用すること）を、室内練習場内に設ける競技者係に提出するとともに、アスリートビブスおよびスパイクピンの確認を受け、トラック種目は腰ナンバーカードを受け取ることで1次招集完了とし、2次招集は現地で行う。なお、予選の実施されるトラック競技の準決勝・決勝については、2次招集時に腰ナンバーカードを配布する。競技開始の2時間前が開門時刻より早いときは、開門時刻以降招集を開始する。
- (2) 2次招集時刻は下記のとおりとする。2次招集開始時刻にトラック競技は出発係、フィールド種目は当該種目の競技役員の点呼を受けること。

招集時刻	トラック	棒高跳以外の跳躍	棒高跳	投てき
開始時刻	15分前	50分前	70分前	50分前
完了時刻	10分前	40分前	60分前	40分前

- (3) 1次招集および2次招集の完了時刻に遅れた競技者は、出場する意思がないものとして処理する。
- (4) 点呼の代理は認めない。但し、多種目を兼ねて出場する競技者は、「体調管理チェックシート」にすべての種目を記載し、その日の最初の種目の1次招集を完了することで、他の種目の1次招集も兼ねることとする。同時時間帯に競技が行われる可能性がある場合には、招集所にある「多種目同時出場届」に必要事項を記入し、その日の最初の種目の招集完了時刻までに競技者係に提出する。その場合に限り、2次招集時刻の点呼に代理を認める。
- (5) 混成競技は、1日目・2日目とも最初の種目については上記(1)に準ずる。それ以降の種目では、混成競技係の指示時刻に指示された場所で点呼を受け、競技場所に移動すること。
- (6) リレーのオーダー用紙提出時刻について
- ①オーダー用紙はプログラム巻末の所定の用紙を使用し、開門時刻から組により設定されている競技開始時刻の1時間30分前までに競技者係に提出すること。なお、4×100mリレーの準決勝のオーダー用紙の提出時刻については、前ラウンドの終了後に場内アナウンスおよび場内スクリーンで通知する。オーダー用紙の提出がない場合は、出場する意思がないものとして処理する
 - ②2次招集時にはオーダーメンバー全員が点呼を受けること。多種目に出場していて、多種目同時出場届の提出が完了している場合には代理でも可とする。
- (7) 止むなく欠場する場合は、プログラム巻末にある「欠場届」を1次招集完了時刻までに競技者係に提出すること。

4. 競技進行について

- (1) 番組編成およびラウンドの通過について
- ①トラック競技の予選のレーン順、およびフィールド競技の試技順はすべてプログラム記載の順番とする。なお、準決勝以降の組み合わせはすべて番組編成員が行い、場内アナウンスおよび場内スクリーンに表示するとともに、大阪高体連WEBページに掲載する。
 - ②トラック競技における次のラウンドへの進出者について
- (ア) (+ α)を決めるとき、その最下位で同タイム(1/100秒単位)が出た場合、1/1000秒単位で優劣の判定をする。
- ・レーンに余裕がある場合・・・同タイム(1/1000秒単位)の競技者の進出を認める。
 - ・レーンに余裕がない場合・・・本人または代理人により抽選する。
- (イ) 同着により着取りによる進出者が増えた場合は、(+ α)での進出者数を減らす。
- (ウ) 800mとレーンを使用しない種目は、同タイム(1/1000秒単位)の競技者は全員次のラウンドに進める。

(2) 競技について

- ①競技結果は、場内アナウンスおよび場内スクリーンで発表するとともに、大阪高体連 WEB ページに掲載する（掲示板への掲示は行わない）。なお、競技結果が場内スクリーンに確定(official)表示された時点を正式発表とする。
- ②当該種目出場者以外は競技エリアに立ち入ることはできない。
- ③スパイクのピンの本数は 11 本以内とし、9mm 以下のものを使用すること。ただし、走高跳・やり投については 12mm 以下とする。また、先端近くで少なくとも長さの半分は 4mm 四方の定規に適合するように作られていなければならない。スパイクのピンのチェックは 1 次招集時に行う。
- ④アスリートビブスは胸部と背部につけること。ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸部または背部だけでよい。
- ⑤男子 5000m・5000mW・女子 3000m・5000mW は別ビブスを使用する。
- ⑥混成競技の最終種目では、それまでの成績による順位を表す別ビブスを胸につけて競技を行う。背は競技者個人のアスリートビブスで、腰はレーンナンバーとする。男子 1500m と女子 800m の最終組では別ビブスと腰ナンバーカードの番号が同一となるよう番組編成を行う。
- ⑦トラック競技では、腰ナンバーカードをパンツの右側やや後方に付けること。なお、4×400m の第 2・第 3 走者は、次走者の待機順を明確にするため、右側に腰ナンバーカードをつけること。なお、腰ナンバーカードは主催者が用意する。
- ⑧トラック競技の短距離種目では、競技者の安全確保のためフィニッシュ後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
- ⑨5000m・3000m はグループスタートとする。
- ⑩5000m は 18 分 30 秒、3000m は 13 分 30 秒、3000mSC は 12 分、男子 5000mW は 28 分、女子 5000mW は 30 分を超えて次の周回には入ることができない。審判長により競技を打ち切る。
- ⑪競技エリア内に通信機器（スマートフォン・携帯電話等）やビデオ撮影機器（タブレット等）を持ち込んではいない。また、競技エリア内で助力を与えたり受けたりしている競技者は失格の対象となる。また、フィールド競技中に競技者が、それ以前の試技映像を観るため録画再生機器などをスタンドからの手渡しや吊り下げる等により競技エリア内に持ち込むことは認めない。
- ⑫競技場内では安全確保の観点からの日傘の使用を禁止する。
- ⑬投てき競技と棒高跳の滑り止めは、主催者で準備しないので、個人で持参すること。

(3) 跳躍競技の予選通過記録は次の通りとする。

種目	走高跳	走幅跳	三段跳	三段跳の踏切板の砂場からの距離
男子	1 m 8 6	6 m 6 0	1 3 m 5 0	男子・・・1 2 m
女子	1 m 5 3	5 m 2 0		女子・・・1 0 m

また、男女走幅跳予選、男子三段跳予選および女子三段跳決勝では下記の記録以下は計測しない。ただし、各競技者の有効試技の 1 回目は計測する。

種目	走幅跳予選	三段跳予選	三段跳決勝
男子	5 m 9 0	1 2 m 5 0	——
女子	4 m 7 0	——	1 0 m 2 0

(4) 走高跳、棒高跳のバーのあげ方は下記のとおりとする。

種目		練習	競技
男子走高跳	予選	1m75 1m83	1m78 83 86
	決勝	1m80 1m90	1m83 86 89 以後 3cm ずつ上げる
女子走高跳	予選	1m40 1m53	1m45 50 53
	決勝	1m47 1m60	1m50 53 56 以後 3cm ずつ上げる
男子棒高跳	決勝	練習は下記の通り	3m60 80 4m00 4m10 以後 10cm ずつ上げる
女子棒高跳	決勝	練習は下記の通り	2m40 60 80 90 3m00 以後 10cm ずつ上げる

決勝で最後の一人となり、優勝者が決まるまでは、上記のバーの上げ方とする。

同記録による 1 位決定と近畿大会出場権を決定するバーの上げ下げは、走高跳 2cm、棒高跳 5cm とする。

棒高跳の練習の高さについては、競技者の実力に応じて任意に設定する。

(5) 混成競技の走高跳のバーのあげ方は下記のとおりとする。

	組	練習の高さ	競技
男子	1 組	1m25 1m50	1m30 35 40 以後 1m70 までは 5cm それ以後は 3cm ずつ
	2 組	1m60 1m75	1m60 65 70 以後 3cm ずつ上げる
女子	1 組	1m10 1m35	1m15 25 30 以後 1m45 までは 5cm それ以後は 3cm ずつ
	2 組	1m35 1m55	1m40 45 58 以後 3cm ずつ上げる

混成競技の走高跳開始の高さは、現地にて決定し、開始の高さの違う 2 ピットに分けて行う。

競技者は第 1 種目の招集所での点呼の際、希望の高さを申請すること。

(6) 投てき種目について

下記の記録以下の者はベスト記録のみ計測する。

種目	砲丸投	円盤投	ハンマー投	やり投
男子	10m80	32m00	35m00	43m00
女子	10m00	27m00	30m00	28m00

(7) 予選が実施されるフィールド競技において、予選通過標準記録を超えた競技者が 12 名に満たなかった場合は、上位 12 名まで決勝に進出させる。なお、12 番目に同じ記録の競技者がいた場合は、下記の方法で決定する。その結果、同成績の競技者は決勝に進める。

① 走高跳の場合

(ア) 同記録になった高さで、試技数の最も少なかった競技者。それでも決まらない時は、下記(イ)を適用する。

(イ) 同記録を生じた高さまでのすべての試技数のうち、無効試技数が最も少なかった競技者

(ウ) 上記(イ)でも決まらない時は、複数名が決勝に進出できる。

② その他フィールド競技の場合 同記録となった競技者の 2 番目の記録で順位を決める。

それでも決められない時は 3 番目の記録で決める。3 番目の記録でも決められない時は、複数名が決勝に進出できる。

(8) フィールド競技の試技時間は次のとおりである。

【単独種目】

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	1分	1分	1分
2～3人	1分30秒	2分	1分
1人	3分	5分	—
連続試技※※	2分	3分	2分

【混成競技】

残っている競技者数	走高跳	棒高跳	その他
4人以上※	1分	1分	1分
2～3人	1分30秒	2分	1分
1人	2分	3分	—
連続試技※※	2分	3分	2分

※ 4人以上または各競技者の最初の試技

※※単独種目・混成競技ともに、残っている競技者数に関係なく適用し 走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。

5. 競技用具について

- (1) 棒高跳用ポール・やり以外の競技用具は、競技場備え付けのものを使用する。
- (2) やりは競技場備え付けのものを準備するが、検査を受けて自己の物を使用してもよい。
検査は、競技開始時刻の1時間30分前～1時間前までに受けるものとし、正面スタンドから入場のうえ、器具庫へ持参すること。なお、混成競技のやりの検査は競技開始予定時刻の1時間前までとする。

6. 抗議について

抗議は日本陸上競技連盟競技規則により、当該校顧問から、総務員に口頭で申告し、総務員が審判長に取りつぐ。

7. 表彰について

- (1) 各種目で8位までの入賞者（入賞チーム）に賞状を授与する。種目毎の表彰式は実施しないが、エントランス内に6位までの表彰台を設置するので感染予防に努めたうえで撮影してもよい。
ただし、近畿インターハイの出場権を得た選手（チーム）は近畿大会申し込み完了後に近畿大会受付から渡す。近畿選手以外の入賞者は、成績発表後できるだけ速やかに正面エントランスまで賞状を取りに来ること。
- (2) 総合表彰式では以下の表彰を行うので当該校（当該者）は必ず参加すること。
 - ① 男女別総合と男女別トラック・フィールドの部で6位までに入賞した学校
 - ② 男女の優秀競技者
 - ③ 男女各総合優勝校の監督（顧問）
- (3) 学校対抗得点は1位8点、2位7点・・・8位1点とする。

8. 近畿インターハイについて

- (1) 近畿インターハイの出場権を得た選手（チーム）は各種目6位までに入賞した選手（チーム）とする。ただし、男女走高跳および男子棒高跳は6位までに入賞した6名とする。男子5000mW・八種競技・女子5000mW・女子三段跳・女子ハンマー投・七種競技は4位までに入賞した者とする。女子棒高跳は4位までに入賞した4名とする。

- (2) 近畿インターハイの出場権を得た選手は必ず近畿大会受付にて申し込み手続きを行うこと。
- (3) リレー種目の出場権を得たチームは、近畿大会受付でリレーオーダー用紙を受け取り、オーダーを記入後、顧問のサインを得て申し込み手続きを行うこと。

9. 競技場の使用について

- (1) 競技者・付添等の関係者は指定された出入口から入退場すること。
- (2) 感染防止に配慮し、声を出しての応援（ラップタイムの読み上げを含む）、集団での応援は禁止とする。また、スタンド最前列及び中央通路での立ったままの観戦も禁止する。
- (3) 横断幕、ノボリの設置はすべて禁止する。
- (4) 以下の箇所にはテントを設置しないこと。
 - ①南北の芝スタンド（土盛スタンド）の中段より下
 - ②メインスタンド
 - ③ビデオ監察の撮影の支障となる場所なお、テントを設置する際に、ロープ等が通路にかからないようにすること。
- (5) 使用した場所は各学校で責任を持って清掃し、ゴミ等は必ず持ち帰ること。
- (6) トラック、フィールドおよび練習走路以外でのスパイクの着用は禁止する。
- (7) 感染防止のため、更衣室の使用は短時間（5分程度）とし、清潔に使用し私物を置かないこと。

10. その他

- (1) 競技場の各所にアルコール消毒液を準備するが、「マスク着用・うがい・手洗い」など、感染防止対策を徹底すること。
- (2) 顧問の受付がない学校の競技者の出場は認めない。
- (3) 競技中に起こった怪我等は、本部の医務室で応急処置のみを行う。
- (4) 盗難の発生や忘れ物に注意し、荷物等の管理は各校で十分注意すること。
- (5) 外国人留学生が大会記録を更新した場合の取り扱いは、大会記録（国際）として認定する。
- (6) J アラート警報が発令された場合は、競技を中断する場合がある

個人情報取り扱いについて

プログラム記載の個人情報（名前、学校名など）および大会結果は、新聞および大阪陸上競技協会・大阪高体連陸上競技専門部のWEBサイト等に記載されますが、本大会関係以外には一切使用しません。また、本大会が認めた報道機関が撮影した映像が中継・録画放送されることがあります。また、本大会では競技の様様をYouTubeで限定公開により配信します。内容は場内スクリーンの映像と同じものです。

＝ 周 知 板 ＝

第75回全国高等学校陸上競技対校選手権大会近畿地区予選会について

期 日：6月16日（木）～19日（日）

場 所：奈良県奈良市・ロートフィールド奈良（鴻ノ池陸上競技場）

総監督：船津哲史（大塚）